

- 町の最大の課題は「人口減少」、H16 美郷町誕生時の約 6,000 人が現在は 4,000 人を切るころまで減少。顕在化している様々な問題の根本原因であり、町の衰退の構造的な背景。
- 高齢化率 48%超で毎年 100 人前後の自然減が続き、10 年後は 3,000 人を割ってしまう。この傾向は今後も続く予想され、人口減少を前提として町政を組み立てていく必要
- これまで移住・定住対策に注力し、足下では一定の成果が表れ、社会増減は改善傾向。今後も注力していくが、移住・定住だけでは人口減少の荒波を食い止める規模になっていない現状。人口減少が続いても町の活気が維持され、新しく活気が創り出されるよう「人口減少に打ち勝つ」「町に活気を創り出す」ことを目標として町政運営を行なっていく必要
- まずは、地域の自発的な賑わいを生み出す取組が極めて大事、積極的に後押し。一方、内輪の頑張りだけでは限界があるのも事実。併せて、町外から人を呼び込み人口が減少したとしても、外の力を借り、町の活気を作り出していく取組も極めて重要
- やみくもに取組を行うのではなく、町の強みを活かした3つの取組「美郷パレ構想」「パリの町づくり」「加一の町づくり」を推進し、町外の人を惹きつけて活気に結び付け、ひいては、町民の暮らし、町の将来に寄与。「美郷町商業活性化賑わい創出拠点事業」では、町民の不便な状況（買物、飲食等）を改善するとともに、将来にわたり町の賑わいを創り出し続けていく
- 令和8年度施政方針は、「人口減少に打ち勝つ」「町に活気を創り出す」という中長期的視野に立った考え方を。一方、令和8年度予算策定は、足下の町民の暮らし・目の前の不便への対処・安全・安心に重点的に予算配分
- 町の2つのビジョン「活気あふれる明るい町」「町外と活発な交流のある町」の実現に向け、これまで進めてきた「人口減少に打ち勝つ」「活気を創り出す」ための様々な取組が次のステージに移り、佳境を迎えようとしている
- 未来に向けて人口減少に打ち勝ち、活気を創り出していくため、水面を力強く切り開く加一の如く美郷町を次のステージへと飛躍させる年に『私達は過去を変えることはできないけど、未来を創り出すことはできる』『人口減少の荒波を乗り越え“力強く前に”漕ぎ出す年にしたい』

① 町民の暮らし（健康長寿、安全・安心、不便の少ない暮らし）

- (1) 物価高騰対策 生産者・事業者の双方に向けた3つの事業を実施 「みさと。Pay 半額まつり」「あったか温泉・ゲルキャン Part2」「施設園芸作物の生産者支援（次期作付け準備給付金）」
- (2) 長寿県長寿町（健康長寿・高齢者福祉等・地域医療体制） 「【全国自治体初】特定健診申込者対象の『マイグナル』費用へ助成（尿を採取するだけで10種類のがんリスク検査）」「胃がん検診の充実（50歳以上の方を対象に胃内視鏡検診の実施）」「介護・認知症予防対策の充実 各種健康教室・専門医による認知症初期集中訪問指導・認知症パートナー養成講座。介護予防の充実（地域へ専門職派遣、eスポーツでフレイル予防等）、生活支援事業の実施地域拡大」「地域医療体制の充実 ワライン診療の周知・利用促進、大和診療所の看護師による訪問看護」
- (3) 安全・安心な町づくり
  - (治水対策・防災対策) 「潮上地区の堤防整備」（国の地質調査、状況調査、居住状況調査が実施。整備時の内水リスク検討に着手）、「江の川中下流域ｽﾀｰﾌﾟﾗﾝ」に基づく治水対策の着実な進展に向け、引き続き関係機関と密に連携。その他ハード事業の継続実施、事業採択に向けた働きかけ
  - (災害対応力の強化) 日頃の備えと災害発生時の両面で取組 「DXを活用した災害情報発信・活用の強化、対応効率化（デジタルガードマップ、災害情報収集アプリ、マイナンバーカード利用による避難所受付等）」「避難所の環境改善対策（順次、更新・拡充。暑さ・寒さ対策を講じるため国の事業応募）」「地域防災の仕組みづくり（古河電工と連携した防災WSや防災学習会の開催等）」
  - (内水対策) 全国初のAI活用閘門操作自動化実証実験の実装に向け国等と連携。関係機関と連携した機動的な排水対応の運用・体制づくり
- (4) 行政手続の利便性向上 「書かない窓口」（マイナンバーカード等活用）の3月運用開始。ワライン申請の一層の拡充（昨年利用 手続：約50種類・600件以上、アンケート調査：約50種類・1,300件以上）
- (5) 情報発信等 特設サイト開設、ウェブサイト分析等により戦略的、効果的に発信 「町の取組み・ピックアップの新設」情報を正確に伝え、町民に理解を深めていただくため、公式サイト内にQ&A形式で分かりやすくまとめて発信 「デジタルガイド対策」出前ｽﾀｰﾌﾟﾗﾝ学習会等の実施
- (6) 交通難民・買物難民対策、自動運転 公共交通対策に加え、移動手段を持たない町民の対策、運転手不足等の課題解決に様々な方策検討 「タクシー利用助成事業」一層の利用促進（R7大幅制度拡充で、利用6倍以上、4~1月利用件数は1,500件以上） 「自動運転EVバス実証実験」数年後の実用化を目指し着実に推進、積極的な国等働きかけ（R7実証実験は国も視察、高い関心）
- (7) 脱炭素のまちづくり R4採択の重点対策加速化事業の最終年度、光熱費負担軽減やより快適な暮らしに役立て、地域の脱炭素化を推進
- (8) 都賀長藤地域活動拠点の整備 今年8月末に建物完成、関連工事等を含め10月竣工予定。地域の自発的な取組を支援
- (9) 地域活動の支援 県等と連携し、担い手不足等の地域運営の課題に対する支援を検討、町民が協力しあった自発的な取組を支援
- (10) 生活機能の維持等（難視聴地域対策、大和地域のGS継続支援）地デジ再送信サービスのための放送設備の設備更改、大和地域の町民生活に必要な機能を維持するため、GS事業継続に向けて引き続き支援

② 人口減少対策（移住・定住人口対策、滞在人口・活動人口の拡大）

- (1) 子育て支援・子どもの成長支援 充実したメニュー（経済的支援、子育て世代支援）を更に拡充し、引き続き支援
  - (子育て支援) 「不妊治療費の助成の拡充（通院に係る交通費への助成）」「妊婦へのRSウイルス感染症予防接種費用への助成」「乳児等通園支援事業の実施（こども誰でも通園制度）」「子ども・若者世代の集いの機会・場所の充実、地域の実情を踏まえた居場所づくりの検討」
  - (学校給食の質のこだわり・給食費の保護者負担) 「小学校」保護者負担をお願いするが負担額を大幅引下げ（1食あたり200円から40円に） 「中学校」国の支援が実施されるまで保護者負担額に町独自上乘せ助成、負担額を引下げ（1食あたり220円から180円に） 「給食費支払口座振替手数料負担」「みさと。Pay」活用した無料化に取組む
  - (美郷町子ども未来応援金) R5~7までで計78人もの生徒が利用、本年度初めて社会人となる方が出る年に、早速ふるさと納税。引き続き実施し、卒業生へのふるさと納税呼びかけ等「美郷町版ふるさと納税」の仕組みづくりに注力
  - (ICT活用教育) ICTｽﾀｰﾌﾟﾗﾝの向上に加え、活用の幅を広げ学習効果を一層高めるよう取組（R7に全児童・生徒のタブレット更新、ネットワーク環境整備）
- (2) 定住ポイント 移住者・町民のライフステージの節目の支援や人手不足対策に役立てる（累計、申請1,000件以上、ポイント付与1.3億以上）

(3) **住まい確保** 「サテライト」浜原地域で2棟建設中、完成で計15棟に。これまで9世帯30人が入居、4月までに2世帯6人が入居予定、サテライトな暮らしを志向する方達をメインターゲットに移住につなげる 「民間賃貸住宅整備事業等」3件の整備進行中、町施設活用した整備も予定

#### (4) **加-の町づくり**

「全国高等学校加-選抜大会・全国高等学校加-長距離選手権大会」 R9.3開催が決定、準備に万全を期す。今後、定期開催も視野に  
「R12島根かみあり国民スポーツ大会」加-スローム・ワイルドウォーター特設コースの基本設計着手、競技場造成地の改良などの準備  
「地元競技人口のすそ野拡大、競技者の育成」県加-協会、島根中央高、町内クラブと連携、体験教室、講習会等の開催。  
「加-レ IMAI 合宿利用の推進」合宿利用助成事業を含むPR、誘致を強化（同志社大、日体大といった強豪校、県内外高校等の合宿利用が増）  
「各種取組の推進（指導者採用）」多くの日本代表選手、全国トップクラスの選手を育成してこられた指導者を採用、様々な取組を推進

#### (5) **バリの町づくり**

「バリの町づくりへの理解促進・機運盛り上げ」地域イベントでのバリ文化関連の取組へ助成。国際交流員の地域出前講座、技能実習生との交流の場の検討など人的交流も充実。イベントでの一時的な来町だけでなく、普段から全国のバリ好きとコミュニケーション、つながりを持つ仕組みづくり  
「インドネシア国立芸術大学（ISI）バリ校との連携」学生との交流を活かし、賑わい創出拠点内装等のデザイン募集、美郷バリフェスの出演検討等  
「バリ島マ村訪問事業」中3生対象「学生親善大使」、一般町民対象「一般親善大使」の助成額5万円を引上げ予定。ISIバリ校の訪問等、美郷町ならではの異文化体験プログラムとして一層充実  
「美郷バリフェスティバル」実行委員会と連携し、町の伝統芸能「石見神楽」の町外来場者披露の機会、バリ文化と融合した創作神楽など、町内外の方が異文化交流を存分に楽しめるイベントに。町内外ボランティア募集、全国の企業等からの協賛募集  
「バリ文化体験交流施設」ガムラン音楽体験等の合宿メニュー、イベント等を検討

#### (6) **美郷バレー構想**

「野生イノシシの疾病研究ワークショップ」県、麻布大、タイガー、町の4者で包括的連携協定を締結。日本でここだけの「美郷バレー」「島根バレー」を目指す（野生イノシシの、豚熱等の罹患状況の検査、行動関係の解析による防疫手法開発、取組で得た知見の獣害対策、ジビエなど資源利用の検討開始）  
「ジビエの町」3/2、タイガー（株）が、ジビエレストラン「たまりば“邑（むら）”」をGU内にオープン、ジビエの町の取組に一層注力  
「三江線廃線跡地を活用した鉄道林再生実証実験」次のフェーズ「線路敷を活用した私有林の木材搬出実証実験の実施」へ。広島大学大学院の西堀教授の調査研究と協力し、獣害対策に役立てる（人と野生動物のすみ分け、野生動物の個体識別モニタリング調査）  
「赤外線ドローン夜間調査による画像データの収集・解析等の実証実験」野生鳥獣被害状況調査を次は農地で実施し、被害防止対策につなげる  
「美郷バレー・山くじらフォーラム2026」これまでの取組・成果を獣害、林業関係者だけでなく、幅広く全国に発信。33自治体が参画する「広島広域都市圏」の鳥獣対策部会事業としても実施

(7) **新たな人の流れづくり** 「新たな2つの事業の実施」『山体験・山留学、イターン来町者、町取組連携者との交流会』『仮称【美郷の魅力体験ツアー】麻布大生を対象に加-、バリ等の取組、魅力を体験』『宿泊滞在助成事業（来町支援）』大学生、町施策・イベント関連など幅広い多数の利用で来町来町の後押しにも。EV車活用した町内移動シェア実施も加え、引続き実施。（昨年4～12月で、申請69件・延べ宿泊数約1,000泊。大学生対象の滞在期間に応じた「みさとと。Pay」付与は41万P）  
「大人の山体験」体験者、受入先の双方から好評、PRに加え参加者のつながりが次の参加を生むよう取組（R7は5人で累計17人に）  
「学生イターン等」R7は5大学来町。来町を縁に滞在人口・活動人口につなげる  
「二地域居住の推進」二地域居住を实践、町の取組と連携する3人を美郷町二地域居住アドバイザーに任命、意見交換し、課題整理、検討、また、国の地方創生伴走支援官3人ともミティング。美郷町ならではの二地域居住施策を作りこんでいく

(8) **ふるさと納税** 体験型等の新たな形や町独自の特産品など返礼品の開発・登録。企業版ふるさと納税の増加に向け、加-、バリといった町の強み・魅力を活かした納税先としての発信力強化

### ③ **町の活気づくり（町内産業の活性化、賑わい創出）**

#### (1) **美郷町商業活性化・賑わい創出事業**

・「賑わい創出拠点施設事業特設サイト」を開設、きめ細かく事業の情報をタイムリーに発信  
・R8建設着手に向けて着実に推進 概算工事費を19億円とし（7.5億円圧縮）、詳細設計を進める  
・JAしまね、JA全農Aコープ、美郷町の包括連携協定締結（人口減少社会の中で、持続可能なビジネスと町づくりの中山間地域バレーとなることを共通目標に、美郷町の商業活性化と賑わい創出の実現）。拠点施設へのAコープ出店が決定し、現在のAコープおおち店跡地には農業関連・生活関連用品を幅広く扱う小売販売店が出店予定。その他についても、R8に公募を開始し、決定  
・事業開始に向け2つの取組開始「産直企業組合へ加入や産直市出品者への機械の導入・更新補助」「テナト出店者への、出店支援の検討開始」

(2) **町の強みを活かしたビジネス創出、町内事業者支援等** 「みさとと。ビジネスプラットフォーム」引続き実施、受賞者を伴走支援。R8前半にR5受賞者「長寿県長寿町」テーマの事業開始予定 「地域商工業等支援事業」町内事業者の意欲的な取組みや起業・チャレンジを引続き幅広く支援 「創業支援等事業計画」創業の促進・チャレンジ支援のため、産業競争力強化法に基づく計画策定と中小企業庁の認定に向けて取組

(3) **みさとと。Pay、町内消費循環・拡大** 90店まで加盟店拡大。商工会と連携、利用店拡大や消費の町内循環・町外からの取込の仕組づくり

(4) **みさとと農業再生プラ** 「みさとと型ゼロカーボン農業バレー」の取組を加速、担い手を町外から呼び込み、就農・定住につなげる。ミトモ農業研修施設「とまちえり」での1期生3人の研修は順調、4月には2期生3人が新たに入所予定。研修終了後の再稼働電源の財源確保や再稼働率の活用等のため、日本総研など外部専門家と連携し、国の制度活用に向けた準備。「守る農業」の要「ファームサポート美郷」は、リソース枯渇地のミトモ栽培事業を引継ぎ組織・運営基盤を強化

(5) **農業支援** 集落営農組織の活動継続、作業効率化を支援（乾燥機、ドローン等導入・更新の補助率引上や対象拡大、格納庫修繕の補助など制度拡充）。中山間地域等直接支払交付金「ネットワーク加算（人材確保・育成等）」「スマート農業加算（リコン式自走草刈機、ドローン等導入）の活用推進

(6) **畜産支援** 多頭飼育農家への飼料価格大幅高騰などコスト増に対し、県等と連携、様々な町補助制度を活用し、継続的に支援

(7) **観光振興** 「美郷町観光協会」法人化に向けた取組みを支援、協会と密に連携した、町の魅力発信や観光メニュー開発、コネタ活用 「雲海（両国おろし・野間）」前日からの星空観察、専門家による雲海リサーチ等のイベント企画、フォレスト環境整備の検討、駐車場不足対策の検討 「石見神楽」美郷町神楽連絡協議会と連携し企画や魅力発信、R8神楽共演大会の支援、広島広域都市圏、江の川流域広域観光連携推進協議会等と連携 「美肌県美肌町」美肌温泉を中心とした観光コネタの魅力発信・PR強化、周辺自治体の温泉施設との広域連携の検討